第２回　下田市立小学校在り方検討会議【議事録】

日　　時	令和７年７月１日（火）14 時 30 分から 16 時 30 分
場　　所	道の駅開国下田みなと会議室３

開会　学校教育課　平川課長

ただ今から第２回下田市立小学校在り方検討会議を始めさせていただきます。 まず、下田市教育委員会教育長からご挨拶いただきます。

１．教育長挨拶　山田教育長

本日は、大変貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。会に先立ちまして、皆様方に私から一言ご挨拶申し上げます。今回の小学校あり方検討会議は、前年度の２月開催の第１回に続いて、第２回目となります。今回ご参加いただいた皆様は、一部の校長や区長様以外は年度替わりを機に交代し、特にＰＴＡ会長様など参加者は一新しています。第１回目では、「第２回目は５月か６月になる予定です」と前置きさせていただいた上で、少しでも多くの方々のお考えをいただく目的で、年度をまたいで２回目、新たなメンバーでさらに協議を進めたい狙いを伝えています。従いまして、新年度になっての新組織の皆様には第１回目と重複する内容、学校の現状等の説明を、事務局からさせていただくことになります。そのような経緯と狙いがあっての今回であることをご承知おきください。

さて、新しい下田中学校がスタートし、早いもので４年目になります。７校の小さな小学校から小学６年生が集結し 114 人、昨年度から 23 人減ですが、それまでの小学校にはない学校での活動や学びを子どもたちは体験しています。コミュニティ・スクールも中学校で令和５年、小学校で昨年度の令和６年に設置に至り、小中学校が地域とともに歩む学校という形ができつつあるように感じておりますが、コミュニティ・スクールが小中学校で立ち上がり、皆様はどう受け止めていらっしゃるでしょうか。機能していると感じているか、まだ途上だと感じているか。近年、少子化が加速度的に進み、学校の再編に舵取りをしながらも紆余曲折する自治体は少なくありません。複数校を一つに、又は二つに統合するところもあれば、逆に豊かな教育環境を求めて移住者の増加が進むという現象を生み、教室を増築したり、マンモス校を複数の小規模校に編制する自治体もあります。自治体によって悩みや課題は様々で、対応も様々です。学校を地域から消したくないと、デジタル技術やリモート技術を駆使しながら他との交流活動を推進し、魅力化を進め、存続しようとする自治体も多く見受けられます。下田市も例外ではなく、魅力的な学校のあり方について高等学校も含め、賀茂地域の一自治体としてこうした話題は避けられない状況ではないかと受け止めているところです。今回、第２回目として改めて新メンバーでご参集いただきましたが、第１回目が２月に開催された時にも「この会は決して学校の再編ありきという会合ではない」ことを前置きで話しました。ここにいらっしゃる方に限らず、中には「学校は地域からなくしたくない」とか、「学校選択できれば」「統合は早急にするべきではないか」などと、そのような思いもあることは予想されますが、教育委員会としてはそれも十分承知しております。激しい少子化問題とともに、多くの自治体が議論し、

知恵を出し合って模索しているように、下田市もこの７小学校のあり方について、魅力を語り、課題を解決するための意見交換の場としたいと思っております。その中で統合をというお考えもあればそれはそれで受け止めるとともに、今後を見据えて議論していただきたいと思います。とにかく、子どもたちのために、どんな学校にしたいか、どんな学校でありたいか、あるべきなのか、それぞれの思いを出し合って、夢も語って欲しいと思っているのがこの会です。第１回目と、この２回目で出された皆さんの自由な発想や願いを、第３回以降の会においての魅力的な小学校を語りあうヒントや材料としたいと考えております。冒頭で申し上げましたとおり、今回ご参加いただいた皆様が加わる新しい組織により、倍のご意見、材料を集められると思い楽しみにしています。市長、副市長はじめ、課長級幹部にも、第１回目開催から承知してもらっており、この２回目開催につきましても昨日の定例教育委員会でも報告しています。この後、事務局から本会議の趣旨、小学校の状況等について説明がありますが、去る 6 月 12 日、教育委員会事務局で静岡市川根本町の教育委員会、小学校を訪れ、下田市同様に、小規模小学校を複数校抱える町の特色ある学校経営について視察して参りましたので、その報告もさせていただきます。あくまで先進事例ですので参考とし、それらを踏まえ忌憚のない意見交換の会にしていただければと思っております。なお、この会には小中学校長、各校 PTA 会長様、小学校区代表区長様、さらに今回は保育所、こども園長、教員、保護者など増員してご参加いただき、前回同様学識経験者として静岡大学教職大学院教授の武井敦史先生、また同じく学識経験者として教職大学院生にもリモートで参加いただいております。武井先生には、中学校統合当初から下田市には深く関わりご助言をいただいております。全国の学校再編について幅広い見識とご指導の実績をお持ちで、このたびも下田市にとりましては心強い助言者、サポーターとして関わってくださいます。本日は、ミニ講義として、約 30 分程ですがお話をいただく予定です。武井先生、よろしくお願いいたします。

それでは皆様、今日はどうぞよろしくお願いいたします。

学校教育課　平川課長

続きまして、学校教育課より今回の趣旨についてご説明申し上げます。

学校教育課　宇仁参事

それでは本会議の趣旨説明をさせていただきます。２月に行った第１回でお伝えした内容と繰り返しになる部分がございますがご容赦ください。

平成 27 年３月 26 日の下田市立学校等再編整備審議会より、６回に渡る慎重な審議を重ねて、下田市立小・中学校の再編整備について答申が出されました。小学校については、再編の指針として、「７小学校体制を維持する。今後１校でも複式学級が生じた場合は校区を検討し再編を検討すべきである」となっておりました。ここで『複式学級』について簡単に説明させていただきます。

平成 27 年度の見通しでは、10 年間はどの学校においても複式学級は生じない見通しとなっていましたが、10 年が経過した現在、稲梓小と大賀茂小で複式学級となっております。複式学級数の推移をご覧ください。これまでの状況を確認したところ、平成 29 年度より複式学級となる人数が１学級、下田市で初

めて大賀茂小が複式学級の対象となりました。しかし、県の複式解消加配のおかげで実質複式学級とはなりませんでした。平成30年度、大賀茂小が下田市で初めて複式学級となりましたが、市の会計年度職員として複式解消教諭を配置し、ほとんどの授業を学年別に実施しました。以降、令和元年度からこれまで、大賀茂小、稲梓小で複式学級となり、県の複式解消加配がつかない場合は、市の会計年度職員を複式解消教諭として配置し、少人数の良さを十分発揮し、一人ひとりを大事にした学習展開をしてきました。市の複式解消教諭を配置するという対策を講じることで、稲梓小、大賀茂小とも少人数指導の良さを生かし、小さな規模でも学校の特色を生かして、学校が地域の文化の中心として存在し、地域とのつながりの中で学習に成果を上げることができていると思います。

今後５年間で200名程の児童数の減少が見込まれ、今後は浜崎小、白浜小も複式学級となる想定です。教育委員会としましては、今後複式学級が新たに生じた場合も、県の複式解消加配が配置されない場合に、市の複式解消教諭を配置するという同様の対応を考えております。下田市の小学校で魅力的な教育活動ができるよう、地域の核となって活躍されている区長の皆様をはじめ、小中学校PTA会長の皆様、こども園・保育所保護者代表の皆様、校長先生、副園長様方といった子供に関わる様々な立場の皆様から率直な意見をいただくための会議として、本会議を設置させていただきました。今、地域であたたかく見守られている小学生とこれから小学生になる幼児たち、そして保護者の皆様の思いを大切にご検討いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

学校教育課　稲葉係長

私からは、設置要綱と今後の開催計画イメージについて、説明させていただきます。第１回の会議にご参加されている委員の皆様については、前回での説明と内容が重複する部分もありますが、ご容赦いただきますようにお願いします。

この会議については、設置要綱に基づいて開催させていただいております。第１条はこの会議の目的となり、下田市立小学校の在り方に係る課題についての意見を聴取するために、本会議を設置するものとなります。この会議では、皆様のご意見から、最終的に会議としての提言をとりまとめていただきたいと考えています。この提言につきましては、決して拘束力のある類のものではございませんが、今後の小学校の在り方に関する方針において、非常に重要なものとなると考えています。

第２条は組織についてです。この会議では会長を教育長、副会長は前回会議にて下田小学校校長の土屋先生にお願いさせていただいております。また、第３項で委員に選任させていただく方を規定していますが、今回の会議から、新たに第４号と第５号を追加して、下田市立保育所及び下田市立認定こども園の代表者の皆さん、保護者の皆様にご参加いただくこととなりました。この会議で議論いただく内容は、今後小学生になるお子様方の問題でもあることから、新たにご参加いただいたものとなりますので、今回からご参加いただく保育所、こども園の皆様についてはぜひ御協力をお願いできればと思います。

第３条は任期です。この会議は、校長先生、PTA会長、区長等、役職に応じてお願いさせていただいている委員さん方が多くいらっしゃいます。役職交代の際には、新しく役職に就かれた方に引き継いでいただきたい、そのように考えていますが、今回の提言については、あくまで次年度に持ち越すことなく年度内にまとめていただきたいと考えております。

第４条は役員として、会長及び副会長の役割、第５条については会議の方法について規定させていただいております。第５条第３項ですが、出席できない際には、代理人の方に出席いただくこともできる、そのような規定となっています。

第６条は部会に関する規定となります。今後の会議を進めるにあたり、検討材料として、より詳細な調査等を行う必要がある、そうした場合には、そのための部会を設置し、そちらで調査研究を行うことができる旨を規定させていただいております。要綱自体は第 10 条までありますが、要綱の説明としては以上とさせていただきます。

それではこの会議の開催計画についてです。資料上段に開催計画スケジュールを掲載させていただいております。今回が第２回の会議となりますが、今年度中にあと３回ほど、次回は９月の開催ということで計画させていただいております。提言をまとめる上で、事例収集や調査等が必要な場合については、先ほど説明した部会を設置して別途検討を行うこともできますので、ご承知おきいただければと思います。

最後に、提言についてですが、一例として「〇〇のような子どもを育てるために、△△△を実現してほしい。」というような文例を記載させていただいていますが、提言内容をどのようにまとめていくか、については、今後の会議の中で整理できればと考えていますので、よろしくお願いいたします。

学校教育課　平川課長

ここまでの説明で確認したいことはありますか。この後、意見交換に入りますので、確認した意見なども含めてご意見を伺えればと思います。よろしくお願いします。それでは意見交換に入りたいと思いますが、初めに現状説明なども含めて、指導主事お願いします。

学校教育課　山本指導主事

３週間ほど前になりますが、6 月 12 日に山田教育長、参事の宇仁、教育委員会企画主任でもある浜崎小学校佐々木教頭と私で川根本町に視察に行って参りました。トーマス、大井川鉄道で有名で県内でも有数の観光地です。人口は 5,600 人ほど、高齢化率は 50%を超えており、県内に於いても高齢化率が高い町です。視察地に選んだ理由は様々ありますが、その中でも今日の在り方会議を実施するにあたってみなさんの話し合う材料になるような取組事例がありましたので紹介いたします。

川根本町は、学校の在り方を考えていく際に RG 授業（連携グループ）という仕組みを考えました。この授業を実施するために授業の最適規模と質の学習グループを研究したそうです。例えば、合唱や体育の球技を行う際には、ある程度の人数がいないと教育の効果が高まらない。一方、算数等のいわゆる座学においては、少人数であったり、習熟度別が教育の効果を高めるため少人数で行っています。

お配りしている図は、RG 授業で集まった時の５・６年生の実践例です。５年生は、１人の教師が 35 人規模の音楽の授業を実施しています。RG の時には、各校から集まってくるので、通常より多くの教員がいます。そのため少人数指導が可能になるので残りの手の空いた教師は、６年生の算数を少人数で実施。１時間目は少人数の算数、2 時間目は大人数で音楽等の柔軟な教育課程が実現するのが RG 授業となりま

す。これはあくまでも一例ですが、川根本町は、このRG授業を経て、現在は令和６年４月より義務教育学校が２校開校されています。川根本町は、義務教育学校の制度制定前の2013年から学校の在り方検討会議を設置し、川根本町独自の取組を考え、川根の子どもたちにより良い教育環境を提供してきたと説明を受けました。以上、報告となります。

学校教育課　平川課長

ありがとうございます。続きまして、静岡大学武井教授よりこの後のグループワークの参考にしていただきたく、講話をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

静岡大学教授　武井　敦史　氏

この度は機会をいただきましてありがとうございます。今日、ご提案するのは、学校の配置という問題です。学校の統廃合とか維持存続も含めて、学校配置という問題にどう向き合っていったらいいのか。その中で活気のある地域、子どもの未来を作っていくために何をどう考えたらいいのかということについて、私なりの問題意識を共有させてもらえればと思います。今日話すのはこの3点です。

まず、この学校配置や学校再編といった問題がどんな問題なのかということです。最初に結論を言うと、学校を再編しながら活力ある地域を維持することもできるし、学校を維持しながら、子どもの教育を改善することもできます。工夫できる事はたくさんありますが、私の経験上そうした建設的な議論に向かえないこともあります。それがどこに起因する問題なのかということと、それを乗り越えていくにはどうしたらいいかということをお話しさせていただければと思っています。

まず、人口減少問題です。人口減少とは、そこに住んでいる人が少なくなるという問題です。これの何が問題なのかということです。例えば、人口が1万人ずつ、面積が1平方キロメートルの町が2つあると想定し、そこには、学校、警察、病院がそれぞれの町に1つずつあったと考えます。この町の人口が半減して、それぞれ5,000人ずつになったら何が起こるか。当然、人口がそれぞれ5,000人になります。5,000人になるということは、同時に、そこから入ってくる税収も半分近くになります。すると、学校、警察、病院を維持するのに半分のお金で維持しなければならない。利用者も半分になってくるでしょう。そうすると、それまでと同じだけの予算をかけることはできないので、施設等も古くなり、利用者が少なくなっていきます。利用者が少なくても、そこにかかるコストは半分になるわけじゃないです。施設が老朽化しても、基本的にはそのまま使っていきます。すると、結果的には他の市町に比べて、施設も古いし、安全も確保されていない。一応同じような形で残っているというパターンが続いていく可能性があります。これが、パターン1です。

もう一方で考えると、A町とB町が合併すると、人口1万人です。人口が1万人だと、基本的に税収も、それ以外に交付金等も単純ではないですが、大体同じぐらいになり、1つの学校と1つの病院と1つの警察をまず置くことができます。面積は当然のことながら2倍になります。これが、パターン2です。合理的なのはパターン2のように思いますが、実は、それほど単純ではありません。

学校にはかけがえのなさというものがあります。地域と学校が一体になってということを、地域ぐるみで教育を支えるということを教育委員会も学校も国も言っています。どうして地域の方々が学校を支援してくれるのかと考えたら、別に不特定多数の学校教育に応援したいというわけではなく、それが自分たちの根っこにつながるような学校だから支援しようと考えるパターンが多いと思います。そこには、学校のかけがえのなさというものがあり、これが1つの財産になっている。そこで、両者の問題をふまえ「新しい地域を作っていこう」という風に考えることで、これは乗り越えることが可能な問題だと思っています。それを、模索していくというのが、今後の趣旨だと私は理解しています。

例えば、どんな問題に当たる可能性があるのかについてお話ししたいと思います。とある新聞で、学校の未来を考える会というのがありました。委員長発言に、委員から公開質問状という記事です。その背景を、少しだけお話します。A中学校というところがあり、そこは非常に少子化が深刻でした。その地域は、小学校2校と中学校1校で、1つの学校では複式が出ている。市教委は、B学校との統合を考えました。B学校も決して大きな学校区ではなく、小中2学級規模です。当然、このA中学校区の地域の方々は、学校をなんとかして残したい。どうして残したいか。学校がなくなってしまうと地域が廃れてしまうからと考えます。もう一方で保護者のかなりの割合の人たちは、子どもの育ちが心配なので、ぜひ一緒になってほしいと考えました。そこでこんな事が起こりました。B中学校の方から、A中学校の統合を考えるなら、自分たちの学校内だけでやってくれという要望書が、「保護者一同」という形で提出されました。普通に考えると変なことです。

どうして、そんなことになってしまったかと考えると、地域の子どもたちのことを市民レベルで考えてくる機会があんまり十分でなかった。学校がなくなったら大変だというリアクションにどうしてもなってしまい、保護者側からすると、今のままじゃ困るというリアクションになることもわかると思います。何が言いたいかというと、学校の配置を考えるということは、長い時間と労力がかかる問題であるということです。それを理解しておく必要があります。

そんな中で、行政は、なんとかしてその問題に対応してクリアしていきます。そこで、大きな誤解が生じていることがあります。行政を権力志向や売名のためと批判する人がいる場合もあります。それから、学校統合すると、市の財政が潤うという言い方で、お金のためというような言い方もあります。無駄をなくせば財源が確保できるだろうという言い方もあります。経験値不足とトップの交代などがあり、こうした誤解が時々生じます。

下田市は幸いに中学校時の経験があるので、経験している人は割と多いかもしれませんが、小学校と中学校では、相当事情が違ってきます。担当者も異動があるので、知見があんまり積み重なっていかない。これはすごく難しい問題で、下田だけではなくて賀茂地域全体がそうした問題に直面することになると思います。機動的に動いていけばいいのですが、それだけの人材が確保できないということも多々あります。そうした中で、学校の配置問題を考えていくと、いくつかのリスクがあると思っています。これについて、前回の会議では、2項対立を避けるということを申し上げたのですが、それ以外に関連する問題として、あと2つ気を付けておく必要があると思います。

まず1つは、学校の配置問題というのは、統合か現状維持かの2択ではないということです。統合するにあたって様々な統合の仕方があるし、そのまま残すとしても子どもが減っている中では中身は変わってくるということです。この極端な2択にはどちらも光は見えてこないだろうという風に思っています。

イス取りゲームのように、どこが生き残ってどこが一緒になるのかという議論になってしまいがちですが、これは誰に対しても決していいことはないと思います。それこそ、人と協力し合わなければならない自治体の中で勝ち組と負け組ができてしまうということから、現に避けるべきリスクだと思っています。

２つめは、標準対応リスクです。これは、行政が落ちがちです、他の市町も一緒になっているから、自分たちも同じようにやったらいいのではないかと考えると、気持ちの上では非常に安定しやすいのは事実だと思います。人口が増え、学校が増えていき、経済が上を向いて、これから豊かになっていくという時に、標準的なリスク対応をしていくのは間違っていないと思っています。

ですが、これから社会が難しくなっていく時に、他市町と同じような対応をするということは、衰退していきますと言っているようなものです。特に学校という組織で、子どもたちの未来を担う組織がしょうがなく諦めて、自分たちも諦めようという空気感に染まってしまったら、そこで育つ子どもは不幸じゃないでしょうか。ですから、標準対応すればいいというわけでもないです。

一方、地域の方々は現状維持を主張する場合が多いです。このリスクは、それで何かが止まるのであればそれはいいと思います。だけど、そのまま維持されたとしても、人口が減っている以上は、そのまま維持することはできないはずです。余力があるうちに次の形を模索するより、条件はシビアな状況で考えなきゃならなくなる。これらのリスクは避けようというのが私からの提案です。

では、守るべきものは何なのかというと、学校の数ではないと思っています。人口が減っていっても、それから学校の配置が変わっても、守るべきものは別にあります。教育の中身のことから言うと、ダイバーシティという言い方をします。いろんな子どもがいるということが重要です。数が多ければ多いほどいいというわけじゃなくて、ある一定以上はいてもそんなに変わらないということが実際皆様も感覚としてあると思います。参考になるのがダンバー数です。コミュニティの上限数というのを調べていくと、このダンバー数は大体 150 で、この 150 という数は、人間の脳の容量からして決まっているという議論があります。そうだとすると、150 人以上多くなってもあんまり意味がない。子どもの世界を考えれば、もっと少なくていいだろうと思います。それから、ダンバー数っていうのは日常的に関係のある人の数で、ネットでフォロワーが１万人いるからそれでいいですという問題ではないです。実際に日常生活で触れ合う人の中に一定程度の多様性が必要です。それは、同じクラスの中で確保しなければならないというわけではないです。クラスが違っても、学年をまたいで関係を作ることができればこの数を増やすことができます。学校をまたいで友達を作ることができれば、たとえ１校あたりの人数が少なくても、このダイバーシティは維持していくことができます。限界集落になってしまって、例えばコミュニティの人口が 100 人を割ってくるということになったら、それは明らかに問題ですが、下田市はまだまだそんな状況ではないです。工夫次第でやりようはあるということです。

２点目に、コミュニティの活性という風に書きましたが、子どもが生きる地域社会っていうのはある程度生き生きとした場所でないといけないだろう。生き生きとした場所であるために、２つのことがあると思っています。１つは、安定性と書きましたが、ころころ変わっていくのではなく、共通した波から流れているということが必要だと思います。そうでないと、そこは自分の場所だと感じることは難しくなってくると思います。もう１つは、昔ながらで何も変わらない地域というのは、活性化されている地域とは言えないです。色々なことが変わっていき、我々人間も変わっていくので、コミュニティも昔のままあるのではなくて、変わっていくことも重要だと思います。それから、衰退感の克服という風に書きましたが、

私は人口が減少するということと、その地域が衰退していくことは、イコールではないと思っています。自然状態にしていくと、人が減っていく。なんとなく自分たちのところは衰えていくと感じてしまいがちです。けれど、こんなふうに考えてみてください。確かに下田市の人口は減っています。だけれども、皆様の実生活で、なにか不便が生じているかと言ったら、別に大した不便は生じていない。だから、人口が減っていったから即衰退というわけじゃない。それを不安になる必要はないが、教育に関して考えると、この「衰退感」が地域を覆うということは、学校にとっては本当に良くないです。つまり、これから未来を生きる子どもについて、なんとなく衰えていくんだという感覚の中で育っていかなければならない。人口が減っていっても、ますます地域は良くなっていくんだと考えることはできると思います。学校を1つにしても、色々な拠点を作っていくこともできる。統合にも色々な形あります。学校という空間の力を大事にしていくことは色々な形で可能です。特にICTが時代に使われるようになり、空間を超えて学びもできます。クラスの人数だけじゃなく、繋がりを作ったり、斜めの連携を作ったりしながら対応できます。そういうことを色々考えていくことが必要だと思っています。検討すべき課題は、配置ということもありますが、築年数、予算、交通条件、人口分布、伝統、公共施設など。可能性としては、ICTの使用、一貫教育、活動教材の分散化、子ども教室等の形や、カリキュラム、学校運営の参加、学校間連携、施設の転移など、これらを掛け合わせて、最適解を出していくのが、この会のミッションだと私は思っています。今後の議論のヒントとして、こんなことを考えたらいいのではないかと思います。皆様の多くは下田市に住居があり、自治会もあり、特殊な状況も考えていかなければなりません。それぞれが、地域の代表だという視点に立ち、なんとか残さなければと議論になると、パワーゲームになってしまいます。そうしないためにも、現時点では自分の立場を括弧に入れて、下田市にとって1番良いことを議論してみたらどうでしょうか。

学校統合の問題は、人口の多い地域を残すために、人口の少ない地域を吸収していく事が議論になりがちです。でも、吸収されていく方の立場の人だってやりきれないです。だから、死力を尽くして戦おうという形になってしまいます。私は、基本的に弱い立場の人や地域に優しいというのが、この議論に必要な基本スタンスだと思っています。現状を維持しようと考えるのではなく、例えば、今から10年後、20年後にどうするかということを基にして考えていくことが必要だと思います。他の地域を勉強し、それを真似しようと考えるのではなくて、下田にとって1番いいことは何かということを、基本に考えていくといいと思います。それは、他市から学んではいけないということではなく、学ぶのはいくら学んでもいいのですが、それを1回忘れ、下田の状況に立って考えることで、どんなことが可能なのかを考えていく必要があると思います。それから、使えるものは何でも使うということです。様々な助成金や制度でも使えるものがあったり、国の制度でも色々なものがあったりします。そうしたものをどう使っていくかが重要だと思います。

最後に、協力した議論が展開されれば、きっといい未来が待っていると思います。実際、中学校の時も、色々危惧されましたが、本当にいい形でまとまっていったので、その可能性をぜひ追求していただければと思っています。以上です。ありがとうございました。

学校教育課　平川課長

ありがとうございます。この後、意見交換に入りたいと思います。初めに、現状説明なども含め、指導主事にお願いしたいと思います。

学校教育課　山本指導主事

まずは、下田市の現状をお伝えします。A 表は、令和 7 年度 5 月 1 日現在の下田市の児童数をあらわした表となります。左下にありますように、通常学級は、法規上 35 人までは１クラスで運営することになっています。下田市においては、下田小の一部をのぞいては、１クラス運営です。また、教育長や参事の説明に何度か出てきましたが、複式学級は、法規上は２学年で 16 人以下の学年・学級は複式学級を組むようになっています。塗りつぶされている稲梓小の２・３年生と４・５年生、大賀茂小の２・３年生は複式学級で運営しています。静岡県においては、16～14 人の複式学級は、県の制度において複式解消の対象となります。下田市においては、市費の複式解消教諭を任用し、単式学級で授業を行えるような体制を整えています。

次に黄色に塗りつぶされているところをご覧ください。令和７年度現在の乳幼児数となります。令和７年度６年生の在籍合計が 134 名に対して昨年度、出生し、令和 13 年度小学校入学予定児童は、１学年、64 名となっています。続いて B 表をご覧ください。こちらは A 表をもとに今後の児童数を推計したものとなります。同時に C 表も見ていただくと半数の学校で複式学級が発生しているのがおわかりになるかと思います。５クラスというのは、複式の発生が１つ、４クラスというのは複式が２つ発生している状況となります。B 表、C 表はあくまでも現在の児童数から割り出した推計にはなりますが、令和７年度現在、600 人ほどいる在籍児童が令和 13 年度には 200 人ほど減り、在籍児童は 400 人ほどになる予測となっています。

ここまで下田市における児童数の現状と推移を説明させていただきました。それでは、ここからグループワークとなります。

話し合いの方法は特に指定しませんので、必要に応じて司会役を決めて進めてください。話し合いは【学校をより魅力化するための意見】、【課題や心配なこと】の２つの柱を設定させていただきました。16 時 10 分ころより各グループの意見を発表していただきますので代表者が発表をお願いいたします。このときに当会議としては、課題になったことをなるべく多く、記録しておきたいので意見を整理していただく必要はございません。全ての意見を発表するようなつもりでワークシートを活用しながら話し合いを進めてください。これからの下田市の小学校の在り方について感じていることを自由にお話しいただきたいと思います。同じ市内であっても小学校区ごとに事情が異なったり、地区の独自性が高いものがあったりすると思います。それから、武井先生の講義や下田市の現状を踏まえながら、子どもたちの学びの充実や豊かな経験に繋がるようなものを感じているままにお話しいただけたらと思います。それでは各グループで自己紹介なども交えながら進めてください。

グループワーク

共有

A グループ

A グループです。

課題として、地区自体の子どもが少ないだけじゃなく、子どものバランスも悪く、活性化が難しいところ、今は情報化社会で、昔は先輩を模範とする育ち方をして、今もそれを土台としてコミュニティが成立していますが、今はバランス悪かったり、地域の中で子どもたちの姿が見えない中では、人と人との関わりを築くというものが地域のコミュニティの中では得られずに育ってしまうため、新しく関わり合うことも考えるべきという意見もあり、今のコミュニティや実際に少子化が進んでいる中では、今までの考え方では通用できないような環境もあるところが課題としてあげられました。一方、魅力もたくさん出てきました。自然豊かで、エリアが広いということ、地域の人たちが協力的で、地域の一体感がある。そういったものがあるからこそ、学校を支えられているということで、地域の一体感が魅力になっていると実感しました。ただ、最後は、新しい教育を作っていくことが必要だと話題になりました。

今、小学校は地域にあり、地域に根ざし、地域の人に大切にされて、豊かな学びがあると思いますが、時代の流れの中では、新しい教育を作っていくという考え方もあるのではないかと。コミュニティの人と人との関わりというものが昔の考え方では通用しない。今の考え方とはまた違う中で、子どもたちが生き抜くための力をつけていくっていう意味では、そういったこともあるのではないかという意見がでました。以上です。ありがとうございました。

B グループ

B グループは、小規模校の魅力として、上級生と下級生が仲良く遊ぶ姿が見られ、学校の中で学年を超えて関わる姿が見られるなと実感をするところです。家庭でも、学年を超えて遊んだという話が話題に出ることがあるということですので、そういったことは教職員の方も感じているところかと思います。合わせて、同学年の子どもたちとの交流が少なくなっているところもあると話になりました。同学年の人数がそもそも少ないので、休み時間にみんなで遊ぶとしても、そもそも少ないので、必然的に学年を超えての遊びになる。同じ学年の子とも遊ばせてあげたいなとか、活動させてあげたいなっていうような課題も含んで、両面を持っているものなのかなという風に感じるところです。

２つ目は、地域と密着した活動がたくさんできるということは魅力としてあがりました。地域の素材を生かした活動が可能であり、ウナギを捕る活動があったりなど、魅力的な活動があります。本校白浜小学校は、スポーツクラブがサーフィン教室させてもらっていて、本当に手厚く教えてもらったりするのですが、そういうところもとても他の学校ではできない魅力だろうなっていう風に感じているところです。一方、これについても、その地域ではできるけれども、こっちの地域ではできないというようなことがあったりするので、そのあたりがうまくそれぞれの良さを体験することができたらいいのになと話が出ました。工夫次第で何か子どもたちに充実した活動をさせられる方法や、アイデアがあるのかもしれないなと思っています。

３つ目は課題になりますが、人と違っていることを受け入れられるようなところ。例えば、いろんな趣味があったとしても、たくさん人がいれば、たくさん友達がいれば、その中で共通の話ができたりと

かっていうところが、数が少ないから難しいところがあるという話になりました。その中で、下田中学校程度の規模があり、色々な人と出会えるっていうのも、また違った魅力があるということが話題にあがりました。単純に、人がいっぱいいて楽しいとか、中学校に行っていろんな友達と関わる中で、すごく楽しかったとか、嬉しかったとか、これは一定規模の学校の良さだと感じているところです。

４つ目は、何かやりたいと思っても、移動にかかる時間と交通手段は、各学校にとっては課題になっていると思います。行き帰りの時間や、子どもは、本当はやりたいと思っているのに、その状況や条件によって制限されてしまうのはもったいないと話になりました。この辺りは実際に進めていくには難しいかもしれませんが、何かうまく工夫すればできることはないかという意見がありました。

最後、全体をまとめて、良いとこ取りはできないのかなというような話になりました。本当はここで良いとこ取りのアイデアが出れば良かったのですが、なかなかそこまでは結びつかなかったです。小規模校の良さと、中学校の今持っている一定規模の良さをうまく接続しながら、その過程で良いとこ取りをできる方法をこれからも知恵を出したいというところで話を終えました。以上です。

C グループ

C グループには、神奈川からいらっしゃった、10 年間下田に住んでいる方がいて、神奈川は人はたくさんいたが、関わりがなかった。下田に来たら関わりが深く、人数だけじゃないという話がありました。統合することを今後、小学校の在り方として考えていく時に、やはり失われるものがあるんじゃないか。例えば、それぞれの地区の良さだったり持ち味だったり、その地区がずっと重ねてきたものをなくしたくないっていう意見がありました。課題として、中学生は通学に 40 分くらい時間がかかっている生徒もいて、中学生は耐えられるのですが、発達段階に応じて考えないといけないなと話がありました。少ないからこそフットワークが軽くなるなどの良さがあるという意見もでました。例えば、少ないなかでも切磋琢磨できるように、学年をまたぐこともできるし、各校で集まって宿泊体験をするなど、少人数の良さを生かしつつ、発達段階に合った集団を現代の機器を利用して良いとこ取りをしていければという内容で話し合いました。以上です。

D グループ

D グループは、やはり地域に学校が支えられているっていう話が出ました。例えば、田んぼがあり、学校の近くに教えてくれる人がいるので、たくさんの体験をさせていただいています。今日も人参をもらってきた子どもたちがいると聞きました。また、踊りやお祭りなど、地域の行事と学校が重なり合っています。ところが、地域の人も少なくなってきていて、田んぼも、次やってくれる人が見つからなかったり、移住者が多く、子どもの代まで定住がなかったり、元々地域にいる人たちとの交流が少なかったりなど地域の問題も見えてきました。それと、やはり学校ごとの良さをなくしたくない。少人数の良さや全校で仲が良いこと。中学に行った時に、色々な友達と出会う刺激がある。ずっとメンバーの変化がないと物足りなさもあるのではないかという声がありました。以上です。

学校教育課　山本指導主事

皆様、熱心なご協議と、情報共有ありがとうございました。武井先生、コメントをお願いいたします。

静岡大学教授　武井　敦史　氏

皆様、本当に地元のことと、下田のことを両方とも考えて、すごく良い雰囲気で話し合いが進んでいたと思います。しばらくの間は、決め手はないかもしれませんが、議論し続けていく中で見えてくるものがあると思っていますので、この調子でぜひ検討いただければと思います。

学校教育課　山本指導主事

ありがとうございました。それでは、グループワークを終了させていただきます。

山田教育長

本当にお疲れ様でした。この会議は、これからの小学校のあり方検討会議ですので、これから小学校で心配されることを払拭できるような手立てを皆様の知恵を借りてやっていきたいと思っております。それで、地域に戻られた時、学校に帰られた時、園に帰られた時に、今日こんな話をした。こんな話題になった。他になにかないか。と共有して、情報を仕入れてまたお集まりいただけたらと思います。今日は園の関係の方々も来てくださいましたので、０歳児、１歳児、２歳児の保護者の方々や、それに関わる教職員の方々の意見がこれからはますます貴重になります。そういった方々のご意見をぜひ吸い上げて、またこの場に集まっていただきたいと思います。非常に課題は多いと思います。ですが、下田市ならではの面白い発想で、子どもたちを育ててほしいと思います。再編や学校統合ありきという会ではありません。子どもたちのためにということを基本に進めていただくと本当にありがたいです。次回、第３回目はまた新たな事例を皆様に紹介するような形になろうかと思います。そういったことも含めて、新しい皆様のご意見を聞きたいと思います。今日はありがとうございました。

学校教育課　平川課長

以上をもちまして第２回下田市立小学校在り方検討会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。